泣いて笑って成長して

　不妊治療の末やっと授かったＹは雪の日に生まれました。妊娠中は順調でしたがいざ陣痛が始まると心音低下により緊急帝王切開、仮死状態で生まれ大学病院へ搬送されました。１ヶ月の入院と退院後も酸素をつけることで２ヶ月後にはすっかり元気になり、その後も定期的に通院し、１歳で卒業予定が、元気なのに２歳になってもまた次ねと言われ、今思えば先生はＹの障害に気付いていたんだと思います。赤ちゃんの頃は年相応の発達でしたが歩きだしてからが大変でした。とにかくじっとできず公園では順番を守れない、お友達を叩こうとして制止すると大癇癪。今もですが多動ですぐ見失うのでいつも目立つ色の服を着せていました。謝る日々に疲れて家に居ると外に行きたい！神社や遊具のない広場など人のいない所へ遊びに行き、いこいの家に入園するまでは毎日雨や台風でもおでかけしていました。

　Ｙの違和感が決定的になったのは２歳半、入園に向けて幼稚園へ遊びに行った時です。５０人はいたと思いますがＹだけ走り回る、順番を守れず大泣き。その時初めて「あ、他の子と違う」と気付いた私は泣くのを必死に堪えて走り回るＹを捕まえてもう帰ろうと伝えました。帰りがけ、幼稚園の先生に「うちでは無理です」とはっきり入園を断られました。まだ現実を受け入れてなかった私はとてもショックでその日のうちに泣きながら保健師さんに電話をして親子教室と専門病院を紹介してもらいました。ただ親子教室でも馴染めずすぐに療育に切り替えてもらいましたが母子通園のため常に気を遣う日々でした。

　その頃から私も自閉症について勉強し始めましたが同時にＹの特性も強まりだし、癇癪や聴覚過敏、自傷行為にこだわりも増えて疲弊していた頃、静岡に転勤となりいこいの家に出会いました。見学に行くと先生の感じや園庭で楽しそうに遊ぶ子供達を見てここなら楽しく安全に通えると即決でした。バスに乗るのが嫌な頃は大好きな猿の写真をたくさん貼ったカードを作ってくれたり、着替えが嫌でパジャマのままやズボンをはかずに行った日もありましたが先生はいつでも温かく迎えてくれ、苦手なことは一緒にどうしたらいいか考えてくれました。おかげで順番も少し待てるようになり、年中の秋からは会話も出来るようになりあんなに苦労していたお友達との関わりも「これ使っていいよ！」とおもちゃを譲ったり、私には「ごはん作ってくれてありがとう！」と言ってくれたり優しい所が沢山増えました。まだまだ困り事もあり逃げ出したくなる日もありますが、良い所や好きな事を大切にして楽しく元気に育ってくれればと思っています。

　静岡に来てもうすぐ３年、先生や仲良くしてくれるお友達とお母さんにＹも私もとても救われています。いつもありがとうございます。

Ｙくん（五歳）のお母さん